<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

事業所番号	2392100034
法人名	東洋ウェルフェア株式会社
事業所名	グループホーム燦むつみ
訪問調査日	平成20年12月9日
評価確定日	平成21年1月16日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2392100034
法人名	東洋ウェルフェア株式会社
事業所名	グループホーム燦むつみ
所在地 (電話番号)	愛知県岡崎市赤渋町字寺前19番地1 (電　話)　0564－58－3003

評価機関名	特定非営利活動法人　中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市昭和区鶴舞3－8－10　愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成20年12月9日	評価確定日	平成21年1月16日

【情報提供票より】(平成20年11月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年2月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	18　人	常勤　9 人, 非常勤　9 人, 常勤換算　12.95 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	1 階建ての　階 ～　1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	63,000　円		その他の経費 (月額)	32,550　円
敷　金	有 (　円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(　300,000　円) 無		有りの場合 償却の有無	有／(無)
食材料費	朝食	470　円	昼食	630　円
	夕食	560　円	おやつ	円
	日額　円			

(4) 利用者の概要 (11月14日現在)

利用者人数		17 名	男性　3 名	女性	14 名
要介護1		5　名	要介護2	6	名
要介護3		5　名	要介護4	1	名
要介護5		0　名	要支援2	0	名
年齢	平均	80.65 歳	最低　55 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柿沼クリニック　松本歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心地から離れた田園地帯の中の新興住宅地の一角にホームは建てられている。開設当初は職員の離職が続き、雇用が不安定な時期があったとのことであるが、現在の利用者の安定した暮らしぶりを見るかぎり、その憂いは全く感じられない。管理者の強い信念に沿い、職員が一丸となってスクラムを組んでケアを実践している。職員の不足が跡を引き、外出支援が十分でないことや、開設1年目ということで地域との交流などに課題は残ってはいるものの、管理者の改善意識の高さからすれば、問題解決に時間はかかるまい。ホーム全体に自由で開放的な雰囲気が感じられることや、初めての外部評価受審に際しても飾らずに自然体で臨む姿勢に好感がもてた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4)** 今回が初めての外部評価受審であり、この項目は非該当。 **今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4)** 日頃から聴きとっている職員の考えや意見を集約して、管理者と主任とで自己評価票をまとめた。一般職員の関与は少ないが、外部評価を通してサービスの質を向上させようとの意識はある。次回自己評価には、一般職員の参画が期待される。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6)** 運営推進会議は、2ヶ月に1度定期的に開催されており、議事録も完備している。地域代表や家族の意見も出ており、現状での課題が話し合われている。管理者は、会議をさらに有効なものとするため、会議のあり方を検討している。会議のマンネリ化を防ぐために、ボランティアの代表や近隣住民等を会議メンバーに加えることも一考であろう。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8)** 初めての外部評価ということもあってか、今回の家族アンケートには多くの家族が意見を寄せられた。自由記述の部分への書き込みも多く、ホームに対する期待の大きさとも理解できる。運営推進会議でも、家族の発言は多い。ホームへの足が遠のいている家族から不満やクレームが出ないよう、情報伝達の方法 (手段) を検討する時期と思われる。
重点項目④	**日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3)** 地域の合同避難訓練には参加したものの、祭り見物や散歩時に挨拶を交わす程度の関係であり、交流とは言い難い状況である。ホーム開設から2年目を迎えるにあたり、利用者の暮らしの充実のためには外部との関係構築が課題となろう。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設に際し、職員から意見を聞いてホームの理念を作成したが、地域との関わりを示す文言は含まれていない。	○	利用者がこれまで通り安心して生活して行くためには、地域の協力は不可欠である。理念に地域との交流についての方向性を示すスローガンを加え、ケアのバックボーンとしていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着を想起させる言葉は含まれていないが、理念はホーム内に掲示されており、職員はいつでも理念を目にすることができる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とは、祭り見物や散歩時に挨拶を交わす程度の関係であり、交流とは言い難い状況である。地域の合同避難訓練には参加した。	○	開設1年目は、ホーム内でのケアの充実が最重要な課題であったはずである。2年目を迎えるにあたり、利用者の暮らしの充実のためには外部との関係構築が課題となろう。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃から聴きとっている職員の考えや意見を集約して、管理者と主任とで自己評価票をまとめた。一般職員の関与は少ないが、外部評価を通してサービスの質を向上させようとの意識はある。	○	自己評価への参画によって、一般職員の意識は変わる。職員育成の意味合いからも、次回評価では職員全員参加型の取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度定期的に開催されており、議事録も完備している。地域代表や家族の意見も出ており、現状での課題が話し合われている。管理者は、会議をさらに有効なものとするため、会議のあり方を検討している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の長寿課へは、事故報告書を送付する程度の付き合いであるが、グイループホーム小部会に出席することで顔つなぎはできている。介護相談員の受け入れもある。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは発行しておらず、急ぎの情報伝達は電話で行われる。詳細な近況報告は、家族がホームを訪れた時に行われることが多いが、頻繁にホームを訪れて利用者を散歩や外食に連れ出す家族もいれば、足が遠のいている家族もいる。	○	ホーム訪問の少ない家族は情報不足になり、ややもすれば誤解やクレームの温床ともなりかねない。的確に情報を伝える方法（手段）の検討が必要となろう。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	初めての外部評価ということもあってか、今回の家族アンケートには多くの家族が意見を寄せられた。自由記述の部分への書き込みも多く、ホームに対する期待の大きさとも理解できる。運営推進会議でも、家族の発言は多い。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設当初は職員の離職が多く、不安定な雇用状態が続いたため、利用者にも少なからず影響があった。現在は職員の定着も進み、利用者にも落ち着きがみられる。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の離職が多かったため、外部研修への参加はほとんどできない状態であった。これまでは新規採用者へのOJT教育が主体で行われてきたが、今後は外部研修の参加にも力を入れていこうとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の同業者で組織するグループホーム小部会に加入し、情報収集や意見交換を行っている。管理者は、スポーツサークルを通じて他のホームの職員と交流を持っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しでもホームの雰囲気に慣れてもらおうと、利用希望者本人と家族に施設見学を勧めているが、様々な理由から利用希望者本人が来ないことも多い。情報収集のための家庭訪問（あるいは入居施設訪問）は、管理者と看護師が行っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	馴染みの関係ができていた若い女性職員の退職を知り、息子の嫁にしたかったのに、と涙を流した利用者がいた。利用者と職員との「きずな」は堅い。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	喫煙習慣のある利用者が吸いたそうなそぶりを見せると、職員が喫茶店まで同行してたばこを吸わせて帰ってくる。家族の参加はなかったが、利用者と職員による一泊旅行も利用者の意向から計画されたものである。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の気持ちや家族の意見、意向も聞きとられているが、管理者、計画作成担当者、看護師及び担当職員によるモニタリングが主体となった介護計画が作成されている。	○	介護計画を利用者本位のものとするためにも、計画作成の都度、本人の意向を聞き（あるいは推量し）、家族の意見を収集・把握して計画に反映させることが望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に実施されているが、利用者の状態変化に伴う随時の見直しができていない。	○	これまでは職員の不足もあって、綿密な介護計画の作成にまで行き届かなかったことは推測できる。質の高いケアの実践は、的確な介護計画に裏打ちされたものであることを理解いただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険適用サービスの他に、保険外のサービスについても料金表を定め、可能な限り利用者・家族の希望を聞き入れようとしている。通院のための職員付き添いは、原則有料である。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと目の先の位置に提携医があるが、ほとんどの利用者はこれまでのかかりつけ医を継続利用している。通院付き添いは原則家族の役割である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設から1年ではあるが、利用者が認知症以外の持病(透析)を持っていたり、90歳を超す高齢であったりと、重度化や終末期の医療を考えざるを得ない状態である。管理者は明確な信念を持っており、現在の職員の介護力量をも考慮したうえで看取りはしないことと決めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員の言葉づかいにも注意を払い、利用者を「ちゃん」づけやあだ名で呼ばないよう指導をしている。利用者の個人情報が記入されている書類は、原則事務室で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食は全員がそろった状態で始まったが、早い人、遅い人、介助を必要とする人等々、利用者それぞれが自分のペースで食事を摂っており、職員が急かすことはなかった。食後も、片づけを手伝う人、居残る人、部屋へ戻る人などさまざまであった。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット間の仕切りを外し、職員を合わせると20名を超す大家族の食事風景であった。調理に加わる利用者はいないとのことであったが、食後の後片付けでは、職員顔負けの働き振りの利用者がいた。食器洗いや拭き上げを、楽しそうにてきぱきとこなしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木の香漂う真新しい浴槽は清潔に保たれ、利用者の入浴タイムを待っている。入浴一覧表に沿って、利用者は週に3回程度の入浴をしている。	○	お風呂が好きな利用者もいれば、嫌いな利用者もいる。入浴時間についても、利用者それぞれに好みの時間帯があるはずである。勤務シフトの都合のつく範囲で、利用者の希望に応えていただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、ゆったりと自由な時間を過ごしていることが多い。職員が指示をして、利用者に何かをやらせているという光景を目にすることはなかった。食後の手伝いも自発的に行われていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員配置の関係で、管理者の理想とする外出支援はできていない。家族アンケートにおいても、最も評価が厳しかった項目である。	○	加齢や認知症介護度の進行は利用者の外出意欲を減退させ、身体能力(足腰)の低下を助長させる。外出を日常的なものとするために、様々な機会をとらえ、意識的に利用者を外へ連れ出す取り組みを望みたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除き、玄関は常に開錠(解放)されている。事務室がホールと玄関をつなぐ通路に面していることもあり、外へ出ようとする利用者に対する見守りは十分にできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夏に昼間の避難訓練を実施し、秋には夜間を想定した職員3名体制での避難訓練を実施した。この時にも、避難した利用者の見守りに課題が出たが、次回の訓練ではさらに難度を上げて、深夜を想定した職員1名によるテストを実施する予定である。	○	訓練を繰り返し行うことによって習熟度を高めることは意義が深い。また、訓練によって自らの力量の限界を把握しておくことも大いに意義がある。様々な場面を想定して実施されている災害訓練から得られるものは大きいはずである。今後も継続して実施されることが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者・職員は、高齢者の健康維持に水分の摂取が重要であることを認識している。しかし、管理者は、水分摂取の機会が少なく満足な支援ができていないと自己評価している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間の仕切りを取り除いているため、ホールは広く開放感にあふれている。ホールからは坪庭風の家庭菜園が眺められる。利用者に季節感を感じてもらうために、管理者はこの庭にミカンの木を植えていく構想を持っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ベッド仕様の洋室と畳敷きの和室とを選ぶことができるが、和室タイプが好まれているようである。こたつを持ち込んだ部屋は、どこにでもあるような一般家庭の雰囲気を漂わせている。氷川きよしが大好きな利用者の部屋には、大きなポスターが貼ってあった。		